

「自分の思いや考えを根拠付けるために引用しよう」

新聞のコラムを読んで、引用の仕方について理解することができる

新聞のコラムを読み、文章全体の構成や引用箇所を捉えることに課題が見られました。そこで、本アイデアでは、これらの課題を解決するために、A5設問二の誤答例に応じた具体的な指導の手立てを紹介します。なお、本アイデアは、第6学年を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

A5 新聞のコラムを読む

A5二 正答率 **20.0%** コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C ウ

授業アイデア例

A5設問二における誤答傾向

設問二

筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。ただし、句点（。）や読点（、）、かぎ（「」）は、字数にふくみません。

【コラム】記事の中の▼は、まとまりを表す印です。
1▼四月二十三日は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しみを味わう日である。2▼子供のころ、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』に夢中になった。楽団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がどった。3▼ある作家の言葉に、「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」というものがある。子供時代に読んだ本を大人になって読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。4▼先日、『セロ弾きのゴーシュ』を再び読んだ。当時は気付かなかった人物の見事なえがき方やたくみな描写に、賢治のすばらしさを実感した。5▼世界の人々が本について考える日。子供はもちろん、かつて子供であった大人も童心に返って本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

「コラム」の構成〔例〕

1のまとまり	「子ども読書の日」の説明
2のまとまり	筆者の子供のころの読書体験
3のまとまり	筆者の思いや考え ※引用している言葉 「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」（ある作家の言葉）
4のまとまり	筆者の現在の読書体験
5のまとまり	筆者の思いや考え

誤答傾向①

引用している言葉を含む文の、最初の5文字を書き抜いている。

■誤答例：×ある作家の

〈引用の仕方を理解する〉

誤答例では、文頭の5文字から書き抜いている。引用している言葉は、「」で括られた部分であることを理解する。

誤答傾向②

引用した場合はかぎ（「」）で括ることとは捉えている。

■誤答例：×世界本の日 ×子ども読書

〈前後の言葉に着目する〉

「」が付いている言葉の前後にある「○○の言葉に」や「…と書かれている」などの記述に着目して、引用している言葉を判断する。

誤答傾向③

筆者の思いや考えが書かれている5のまとまりを選んでいる。

■誤答例：×世界の人々

〈文章全体の構成を捉える〉

文章全体の構成を捉え、筆者の思いや考えを根拠付けるために引用していることを理解する。

実生活で生きて働く国語の能力として、目的に応じて、適切に引用できるようになることは大切です。その際、「自分の考えを補説したい」、「説得力を高めたい」など目的意識をもたせるように指導します。



コラムの構成を考え、筆者が一番伝えたいことは何かを捉えることで、筆者は自分の思いや考えを根拠付けるために、3のまとまりで、ある作家の言葉を引用していることを実感できるように指導します。

本授業アイデア例 活用のポイント!

- 引用の必要性や効果を実感できるよう、例えば、物語の魅力の説明するために登場人物の心に残る言葉を引用したリーフレットをつくる言語活動を設定することなどが考えられます。